



ポリ(2-CT)化合物等
Total 200ml
702ホムロウ ~ 0.5ml

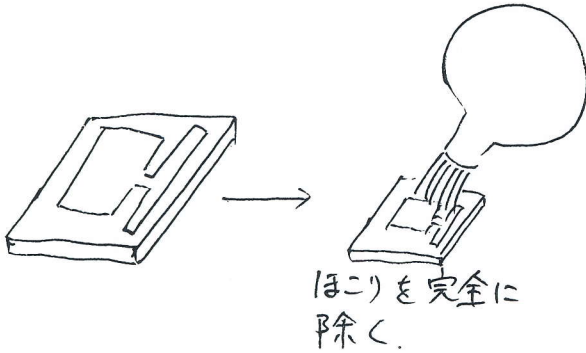
なるべく濃い溶液を使う。

薄い溶液だと、乾いた時に、



断面
とになってしまう。(圧着時に空気が抜けない)
濃い

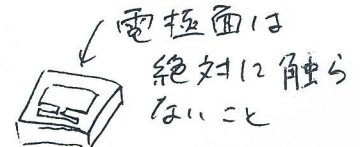
こうなるので、圧着時に楽



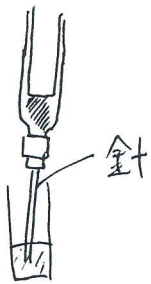
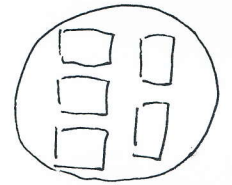
ほこりを完全に
除く。



レジャーレ中に5枚
ならべよ



電極面は
絶対に触ら
ないこと



針を付けた注射器
で溶液を吸い込む。



注射器を上に向け、
空気を吸い込み、
針中の溶液を
シリンダー内に
入れよ



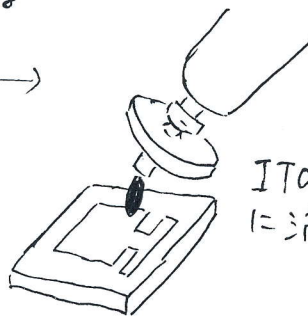
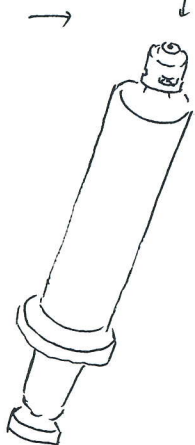
針を取りはずし、
シリンダー内の余分な
空気を除く。



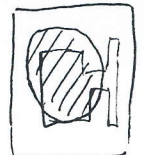
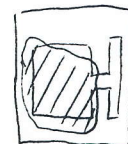
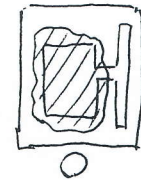
メンブレンフィルター
0.2 μm
をとり付けよ

注意

ITO電極の
四角い部分が
全部覆われる様
にすよ。



ITOガラス上
に滴下

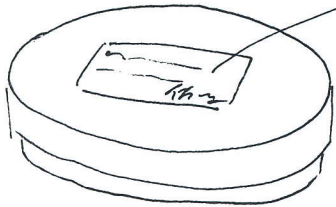


X

X

電極が一部で出てくると
測定時にショートしてしまう。

キャスト後はすぐに
フタをかぶせる



ラベルをフタの
裏には
マジックで、
何の化合物が
おかし様に書いておく。
ホウ酸は貝石目が同じなので、
書いておかないとわからなくなる。

そのまま一週間放置

3日程度では乾かない
(3日放置(右のは、貝石目は
フィルムになっておき、加熱
すると泡か出てしまう)。

→ オープンに入れ、40°C
で数日放置。

→ 60°Cで1日放置。

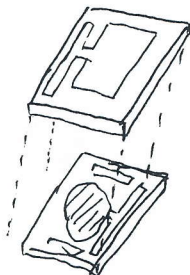
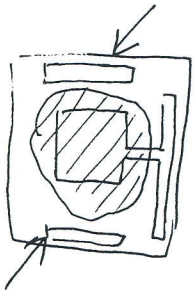
→ デシケーターに入れ、
真空ポンプで2~3日減圧放置

これだけやってもダメなこともある。

★測定用サンプルの作製

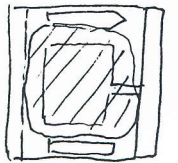
クリーンブース中で100°Cのホットプレートに
サンプルを載せ、柔らかくする。

100 μm (0.1mm) のITO切片 (ITO/2A-4-)
をフィルムの上下に載せる



もう1枚のITOから
をフィルムにかぶせる

クリーンブースで



ホウ酸が
電極を完全に
覆っていること
が必要。

1か所でも電極
が出てると測定
できない。

冷却は完成!

・電極をすべて覆っているか。
・全体が100 μmになっているか。
確認